

事務分掌

第 8 章

砂 防 課

杉の沢川・水と緑の砂防モデル事業



1. 事務分掌

区分	事務分掌	人員	備考
総務担当	1. 課内における連絡調整に関すること。 2. 予算・決算に関すること。 3. 給与・旅費・物品・文書に関すること。	4	主任 1 主任 1 主任 2
砂防担当	砂防に関すること。	4	主任 (傾斜地保全) 1 主任 1 主任 1 主任 1
傾斜地保全担当	急傾斜地崩壊対策、地すべり対策、砂防災害に関すること。	3	主任 1 主任 1 主任 1

1. 砂防事業の概要

本県の河川の水源地および溪流は荒廃が甚だしく、特に融雪降雨に際し土石流による災害が頻々と発生している。砂防事業はこの土砂災害を防止するため砂防ダム工、砂防流路工等を溪流において施行するものである。本県における砂防事業の歴史は浅く、事業着手は昭和8年度である。以来、平成2年度までに事業費約908億5千万円をもって砂防ダム工852基、砂防流路工延長約143kmを実施した。

(砂防事業の推移・公共事業)

年度	昭和61年度		昭和62年度		昭和63年度		平成元年度		平成2年度	
箇所数	工事箇所数	工事完成数	工事箇所数	工事完成数	工事箇所数	工事完成数	工事箇所数	工事完成数	工事箇所数	工事完成数
	61	24	58	25	66	24	70	19	71	22
	30	8	32	13	27	9	26	6	25	3
事業費	5,502,000千円		6,446,679千円		6,356,000千円		6,449,000千円		6,406,000千円	

◎備考……① 上記表の上段は砂防ダム工、下段は砂防流路工を表わしたものである。

② 完成数以外は翌年度へ工事を継続するものである。

(砂防設備一覧表)

工種	事業名	通常砂防	災害復旧	県単	計
ダム工		852基	13基	9基	874基
流路工		142,617 ^m	77,178.7 ^m	20,034 ^m	239,829.7 ^m
護岸工		—	—	3,579.2 ^m	3,579.2 ^m

平成3年.3.31現在

(砂防指定地一覧表)

溪流数	箇所数	面積(ha)
1,001	1,355	11,242.7

平成3年3.31現在

火山砂防事業

火山地帯は観光資源が豊富で、リゾート開発が盛んであるが、火山活動や集中豪雨による被害も顕著であるので、総合的な対策でこれらに対応するため、通常砂防から独立させた事業である。



田沢湖町、先達川



千畑町、上野沢川

水と緑の砂防モデル事業

自然景観の優れた地域等において、景観にマッチした砂防事業を行なうことによって、水と緑とを調和させ、水に親しむ機会を創出する。



八森町、杉ノ沢川

砂防環境整備事業

流路工等砂防設備内で環境整備のための基盤整備を行なうことによって、良好な水辺空間創出に資するものである。



千畑町、丸子川

砂防コミュニティ事業

地域における砂防設備を核とした安全で快適なまちづくりを積極的に展開するため、従来モデル的に実施してきた事業を総合的に実施し、国土保全と調和した地域開発を誘導し、都市環境の改善を図るとともに、地域の活性化に寄与する砂防事業を促進する必要がある。



横手市、清水沢川

3. 地すべり対策事業

本県の地すべりは第三系の台島、西銅沢層のいわゆるグリーンタフと女川層の頁岩および泥岩の地質に多く発生しており、これらの発生地域は、出羽丘陵の南北両端と奥羽背梁山脈の西縁にある男鹿半島に集中している。

この対策として昭和28年度から防止工事に着手し、平成2年度まで事業費約134億8千8百万円をもって57箇所に着手し、内34カ所を概成している。

(地すべり対策事業の推移・公共事業)

水 系	昭和61年度		昭和62年度		昭和63年度		平成元年度		平成2年度	
	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数
地すべり対策工事	14	1	16	4	16	—	18	1	19	1
事業費	629,600千円		1,001,200千円		1,038,700千円		1,771,600千円		1,368,800千円	

◎備考…… 完成数以外は翌年度へ工事を継続するものである(緊急事業を含む)。

(地すべり防止区域指定一覧表)

水 系 名	箇 所 数	面 積 (ha)	概 成 箇 所 数	面 積 (ha)
(一級水系)	46	1,437.02	24	534.24
米 代 川	17	557.24	8	206.95
雄 物 川	16	512.73	7	153.31
子 吉 川	15	443.27	9	173.98
(二級水系)	7	136.93	5	103.03
(その他水系)	8	129.86	5	68.85
合 計	63	1,780.03	34	706.12

平成3年.3.31現在



東成瀬村谷地地すべり全景



4. 急傾斜地崩壊対策事業

近年各地に急傾斜地の崩壊が頻発し、人命、財産に重大な被害をもたらしているが、政府においてもこの問題を重視し、昭和44年8月「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」を制定し防止工事の実施と併行して有害行為を規制するなど総合的な対策強化を計っている。

本県においては、昭和43年から防止工事に着手し、平成2年度まで事業費約199億3千5百万円をもって267箇所に擁壁工及び吹付工を施工し概成している。

(急傾斜地崩壊対策事業の推移・公共事業)

事業名	昭和61年度		昭和62年度		昭和63年度		平成元年度		平成2年度	
	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数
急傾斜地崩壊対策工	36	8	38	10	34	9	31	9	31	3
事業費	913,000千円		1,204,050千円		1,010,440千円		1,008,365千円		1,737,125千円	

◎備考…… 完成数以外は翌年度へ工事を継続するものである(緊急及び災害関連事業を含む)。

(急傾斜地崩壊危険区域指定箇所数)

地区名	箇所数	面積 (ha)	概成箇所数	面積 (ha)
鹿角	34	88.67	14	30.29
北秋田	52	80.70	42	54.21
山本	49	75.57	43	60.87
秋田	118	210.31	87	139.18
由利	60	121.25	30	45.32
仙北	37	35.33	20	20.76
平鹿	23	35.48	13	18.95
雄勝	40	68.42	18	27.83
計	413	715.73	267	397.41

平成3年. 3.31現在

完 成



矢島町丸森地区

施 工 前



5. 雪崩対策事業

近年、各地の豪雪地帯で雪崩の災害が頻発し、人命、財産に重大な被害をもたらしている。この人命、財産を保護するため、昭和60年度から雪崩対策事業が実施されております。

本県においては、全国で4番目に多い1,056箇所の雪崩危険箇所を有し、昭和62年から防止工事に着手し、平成2年度まで事業費約3億9千5百万円もって5箇所に雪崩予防柵及び防護擁壁工を施工している。

(雪崩対策事業の推移・公共事業)

事業名	昭和62年度		昭和63年度		平成元年度		平成2年度	
	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数
雪崩対策工事	1	—	2	—	3	—	4	1
事業費	29,664千円		80,000千円		127,000千円		158,000千円	

(雪崩危険箇所数)

地区名	箇所数
鹿角	74
北秋田	161
山本	67
秋田	175
由利	239
仙北	110
平鹿	69
雄勝	161
計	1,056

施 工 後



増田町狙半内滝の下地区

施 工 前

